

5
6
7
8
9
30
1
2
3
4
5
6
7
8
9
40
1
2
3
4
5
6

稻妻歌 いなづまうた

怪嵐標子 あざなひょうこ

樂亭馬化 がくていばけ

一勇齋國芳画 いちゆうざいこくほうが

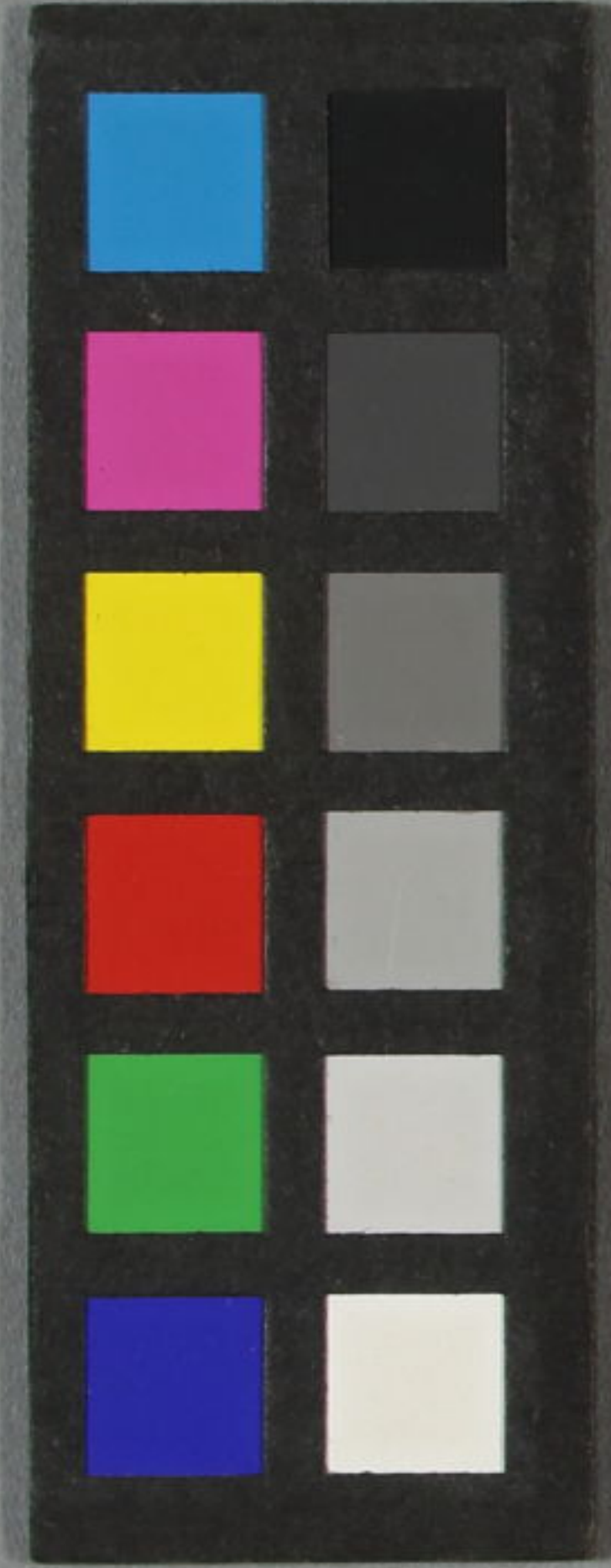
初編

錦羅堂持



一勇齋

~ 13
3832
1





怪鼠標子
稻妻形

初編上

J

門
號
卷
1

稻妻形

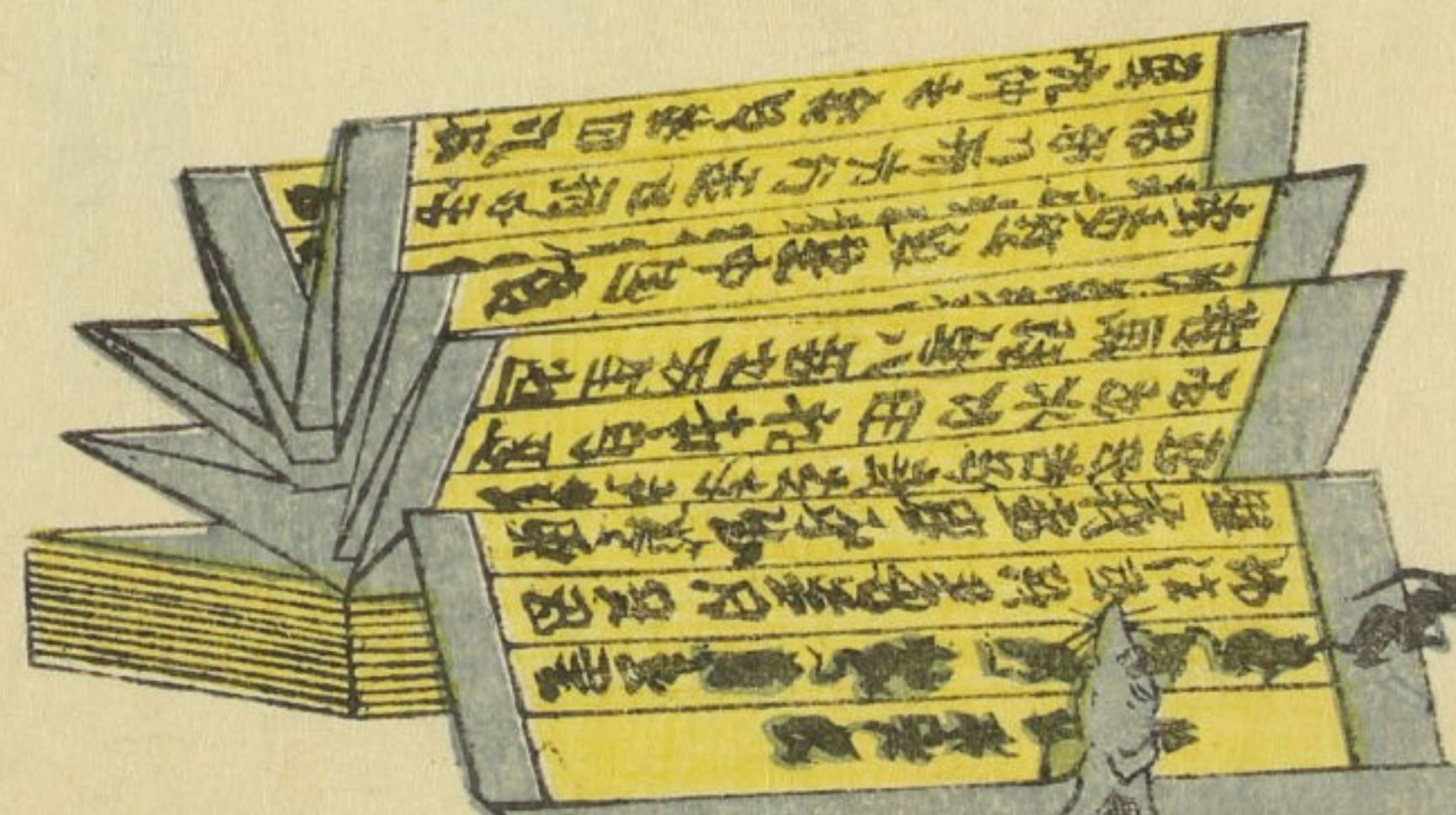
怪鼠標子

初篇

樂亭西馬作

一勇齋國芳画

錦昇堂發行



艶麗好まざる仕夫のいふこと。書完す作者の

いと拙しと笑ふもそれ珠の盃に愛せり昔男諸

藉ふ心臆せり高名家の談りて今僕等が慢扱ふ手書とるべ

雅優言葉と見真似共却て着官を鼻と撮らん素より外題の文章を覺る

陳漢書倭本馬更記と聞の袖七と知り印本とやら満犯り並ぶ物の

本草有目所藏大庫と権職とるも仕上の品が樂屋のあれ青天店でも

日本一冊買ふに百り待て暫しけふ晦日と塩噌の書出さるる内拂ひ

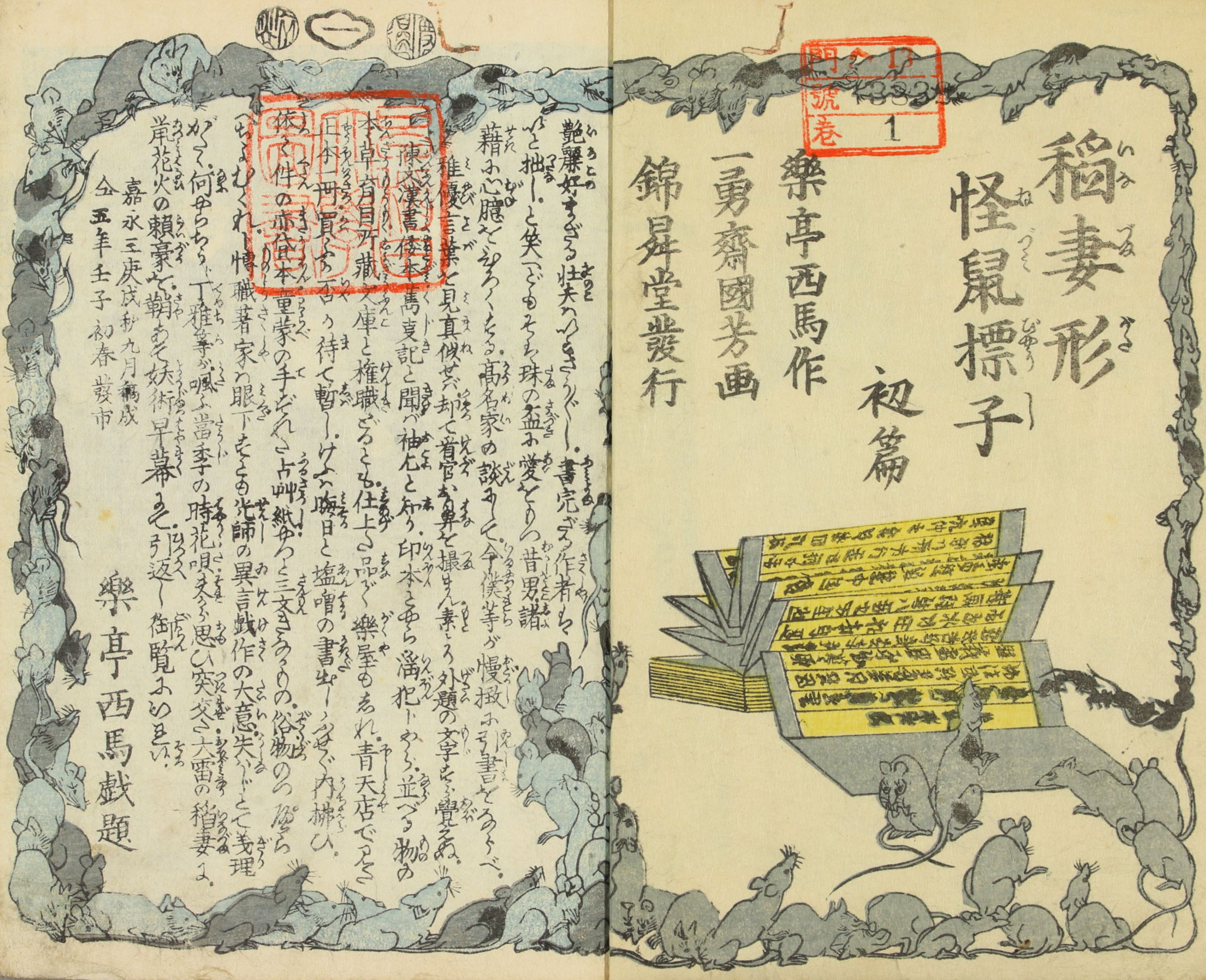
依て件の赤倉本重蒙の手どれに占岬紙の二三文あるの俗物のゆら

かへ何からやら丁稚等が唄ふ當季の時花唄を思ひ突交さ六雷の稻妻よ

崖花火の頼豪を朝あて妖術早幕を引返し御覧ふの目

嘉永三庚戌秋九月編成
五年壬子初春發行

樂亭西馬戲題





春雨や
 漏らば
 龍の子
 六郎
 野の
 二
 障井の
 四郎
 毛塚の
 太郎
 五

次猪
 助



箱妻形

高義者
 冠者
 津の
 須弥
 定羅
 阿修
 好野
 賊



頼朝の
息女
大姫



兼平の
妹
唐糸



秩父庄司
次郎重忠

石田
太郎
為次

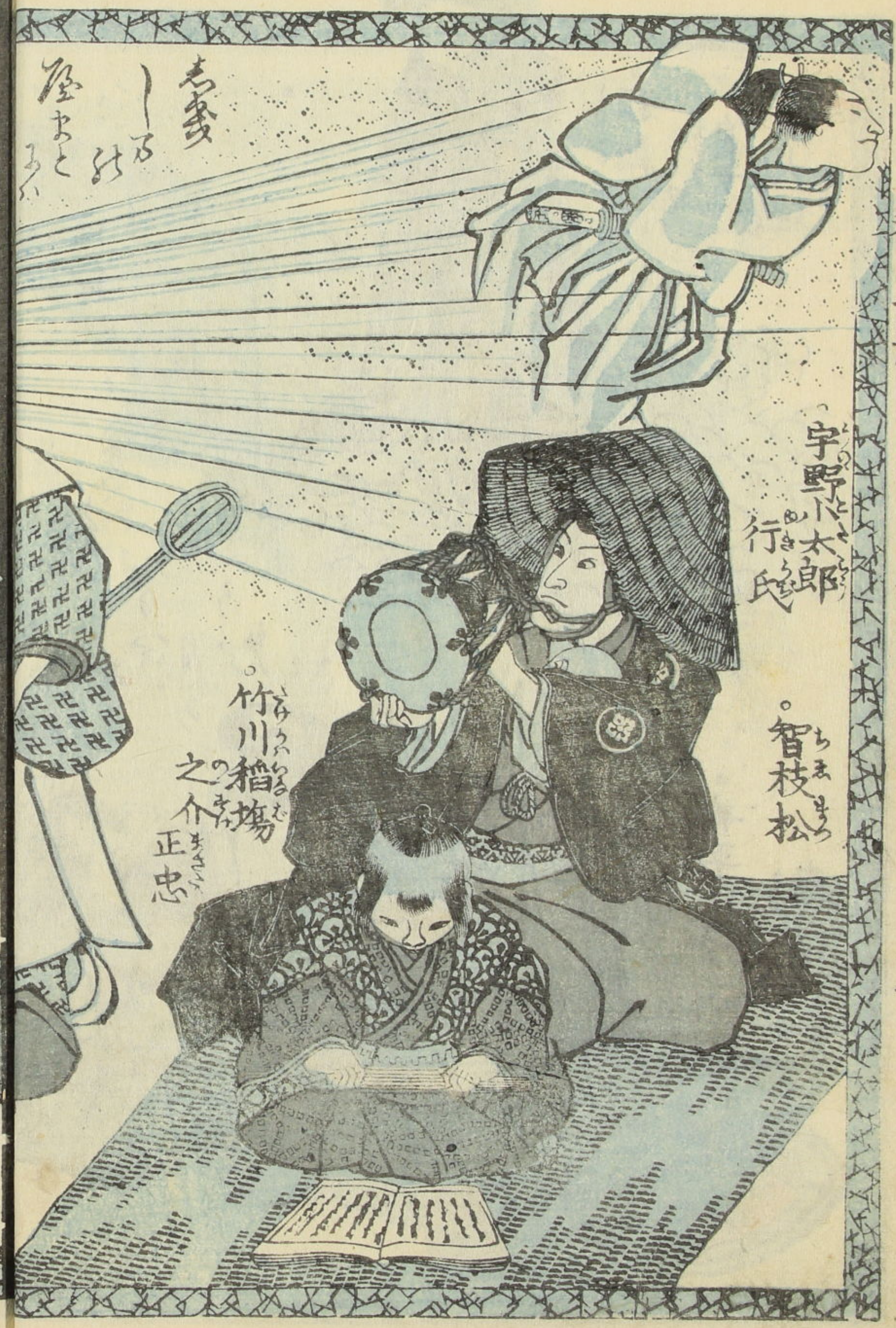


行氏
結号
棧橋

あつめ
うさぎの
おん
おん

重忠
内室
嬬子

光太郎
真間
猫



志
屋
おと

竹川
之介
正忠

宇野
行太郎

智枝松

和
形

よるまゝなり 平家公世をたつて千はね
らんか入まのちんせえりあふるを
まらむとりの平家公世の天理はくも
くろくんとむら佐佐木頼朝朝
りつひがく小まよりの木曾
冠者美伸持頼朝のつれ
らちりてふらひらひら
そむく木あり 仲兵衛の
えんせえり 仲兵衛の
世帯乃先生受取
まらむとりの平家公世の天理はくも
くろくんとむら佐佐木頼朝朝
りつひがく小まよりの木曾
冠者美伸持頼朝のつれ
らちりてふらひらひら
そむく木あり 仲兵衛の
えんせえり 仲兵衛の
世帯乃先生受取

▲本家内けり 石田太郎
石田太郎のちんせえりあふるを
まらむとりの平家公世の天理はくも
くろくんとむら佐佐木頼朝朝
りつひがく小まよりの木曾
冠者美伸持頼朝のつれ
らちりてふらひらひら
そむく木あり 仲兵衛の
えんせえり 仲兵衛の
世帯乃先生受取

石田太郎為父



石田太郎のちんせえりあふるを
まらむとりの平家公世の天理はくも
くろくんとむら佐佐木頼朝朝
りつひがく小まよりの木曾
冠者美伸持頼朝のつれ
らちりてふらひらひら
そむく木あり 仲兵衛の
えんせえり 仲兵衛の
世帯乃先生受取

源頼朝卿



源頼朝卿のちんせえりあふるを
まらむとりの平家公世の天理はくも
くろくんとむら佐佐木頼朝朝
りつひがく小まよりの木曾
冠者美伸持頼朝のつれ
らちりてふらひらひら
そむく木あり 仲兵衛の
えんせえり 仲兵衛の
世帯乃先生受取

西馬作
國芳画



初編下

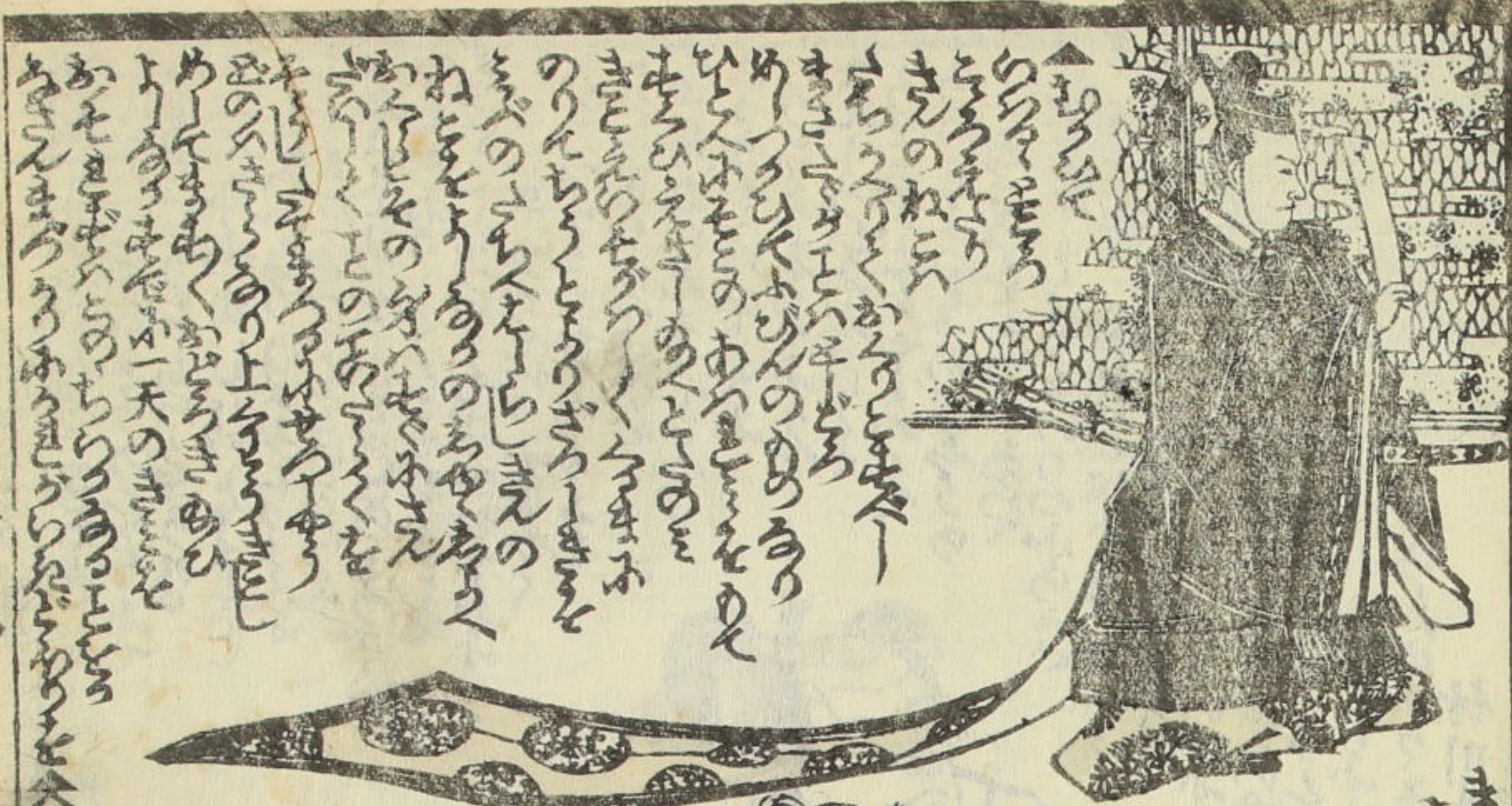
錦屏堂梓





Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or dialogue related to the illustration above.

Handwritten text in vertical columns, continuing the commentary or dialogue from the previous section.



Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or dialogue related to the illustration above.

Handwritten text in vertical columns, continuing the commentary or dialogue from the previous section.



Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or dialogue related to the illustration above.

Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or dialogue related to the illustration above.

Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or dialogue related to the illustration above.

Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or dialogue related to the illustration above.

Handwritten text in the top right section, likely a preface or introductory notes.

Handwritten text in the top left section, likely a preface or introductory notes.



Handwritten text in the middle left section, continuing the narrative or commentary.



Handwritten text in the bottom right section, likely a conclusion or final notes.

Handwritten text in the bottom left section, likely a conclusion or final notes.



稻妻の形
怪氣標

子
武編

一勇
多画
樂亭
作



錦昇堂
蔵板

のたる
新
鏡

頼豪阿奢梨の小説子冠者義高が妖鼠の術を受く種々奇謀を行ひ又猫間の光
實金の猫乃名器をとりて是を劫ぐ都て猫と鼠の争ひ小傾りる作物語也とて建策の素
とに彼の稻妻表紙の不破名古屋を綴り合せ聊差略を加えて急案せよと書賈
錦昇堂の需小例の安請合五百百と言延一甘鼠の藝の米搗車獨樂廻一六
時中机小隙のあく漸初編認して投納せむ直二編の催促使の下雅の口詢舌打るも喜
る今作者の耳へ鼠ある妻を春は猫糞髭ひやくと俗用の胸小つは家根鼠
かざるけいせいのあはれも少迫端つるし下溝鼠夜業持も筆先開くいつる明行鳥猫
言訳古く版元はけいもやうれ雉子猫氣を白鼠くは從仕官も香合造つ居さいつく
小耳を越して頭く袋とく袋とく猫同然目で時を知り午刺迫と寸進れをかめり
物りのひらけ聞ぬ已等やごちうと鼻唄交りのいら責小鱧の頭備の餅序文
ひとひら口塞げふたもやうらうらう喉とあふと戻らふお中ん。

嘉永四年辛亥秋草稿成
五年壬子初春渡市

樂亭西馬戲述



西馬戲述



梅公羽
源頼朝卿

兵衛佐
源頼朝卿

重忠
一子重若

西行法師

竹川
正忠妻
律戸

若見
野中

妖術
怪鼠

頼朝息女
大姫君

憲清入道
西行法師

大義高
精要中

若

Handwritten text in the upper right section of the right page, likely a preface or introductory notes.



唐糸

棧橋

Handwritten text in the lower right section of the right page, providing commentary on the illustration.

Handwritten text in the upper left section of the left page, continuing the narrative or commentary.



行氏

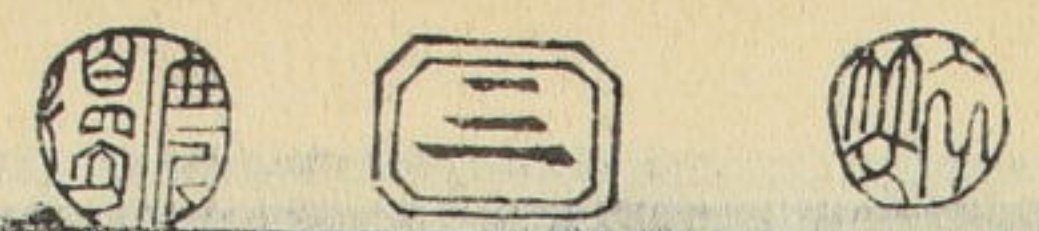
Handwritten text in the lower left section of the left page, providing commentary on the illustration.

樂亭西馬作
一勇齋國芳画



二編下





Vertical columns of handwritten Japanese text on the left side of the top illustration.



Vertical text on the far left margin, possibly a chapter or section title.

Small vertical text or character on the left margin below the illustration.



Vertical columns of handwritten Japanese text on the right side of the bottom illustration.

石田為久
石田為久は、徳川家臣として、
豊臣氏に仕え、その没落を
嘆息し、徳川氏に仕へた。
其の忠節は、後世に傳へ
られた。其の事蹟は、
史書に記され、其の
忠義は、人々に敬ばれた。
其の事蹟は、史書に記され、
其の忠義は、人々に敬ばれた。
其の事蹟は、史書に記され、
其の忠義は、人々に敬ばれた。



石田為久

石田為久は、徳川家臣として、
豊臣氏に仕え、その没落を
嘆息し、徳川氏に仕へた。
其の忠節は、後世に傳へ
られた。其の事蹟は、
史書に記され、其の
忠義は、人々に敬ばれた。
其の事蹟は、史書に記され、
其の忠義は、人々に敬ばれた。

唐糸
唐糸は、唐の絹織物で、
其の質は、非常に優れ、
其の色は、非常に美しい。
其の事蹟は、史書に記され、
其の忠義は、人々に敬ばれた。
其の事蹟は、史書に記され、
其の忠義は、人々に敬ばれた。



唐糸

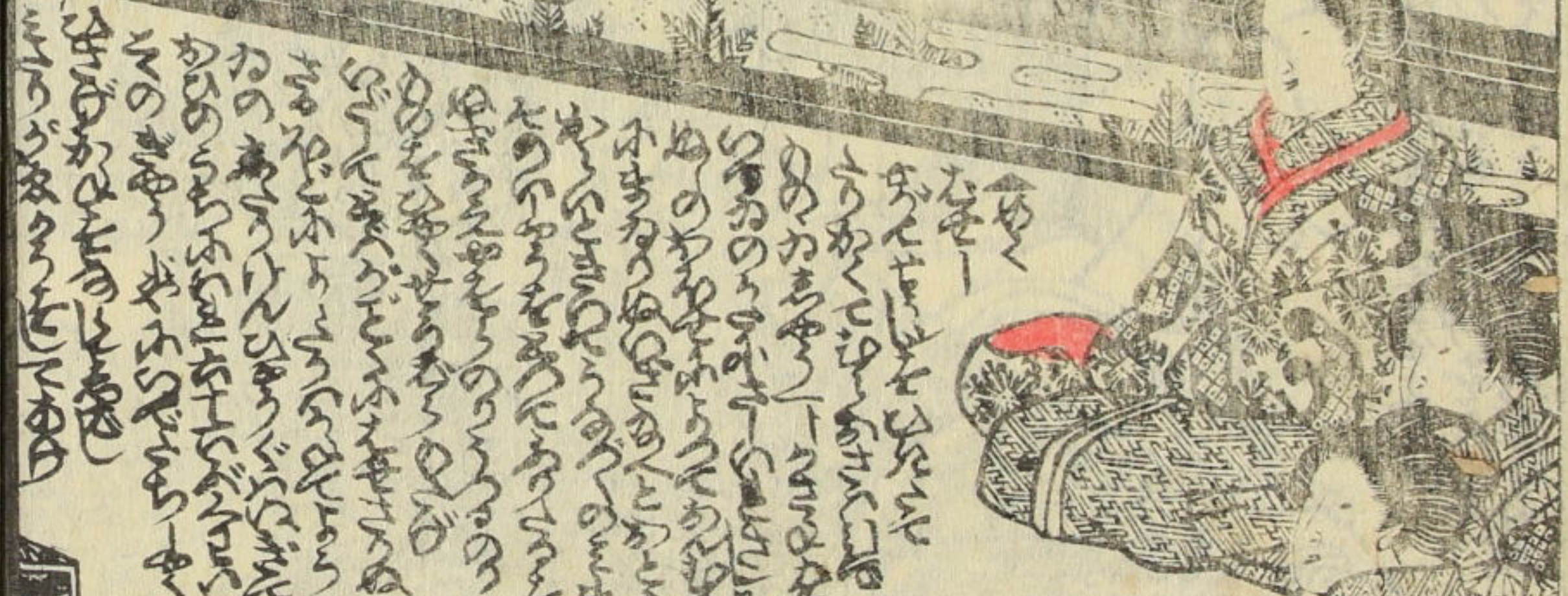
唐糸は、唐の絹織物で、
其の質は、非常に優れ、
其の色は、非常に美しい。
其の事蹟は、史書に記され、
其の忠義は、人々に敬ばれた。
其の事蹟は、史書に記され、
其の忠義は、人々に敬ばれた。

堀江答次
堀江答次は、徳川家臣として、
豊臣氏に仕え、その没落を
嘆息し、徳川氏に仕へた。
其の忠節は、後世に傳へ
られた。其の事蹟は、
史書に記され、其の
忠義は、人々に敬ばれた。
其の事蹟は、史書に記され、
其の忠義は、人々に敬ばれた。

堀江答次



堀江答次は、徳川家臣として、
豊臣氏に仕え、その没落を
嘆息し、徳川氏に仕へた。
其の忠節は、後世に傳へ
られた。其の事蹟は、
史書に記され、其の
忠義は、人々に敬ばれた。
其の事蹟は、史書に記され、
其の忠義は、人々に敬ばれた。



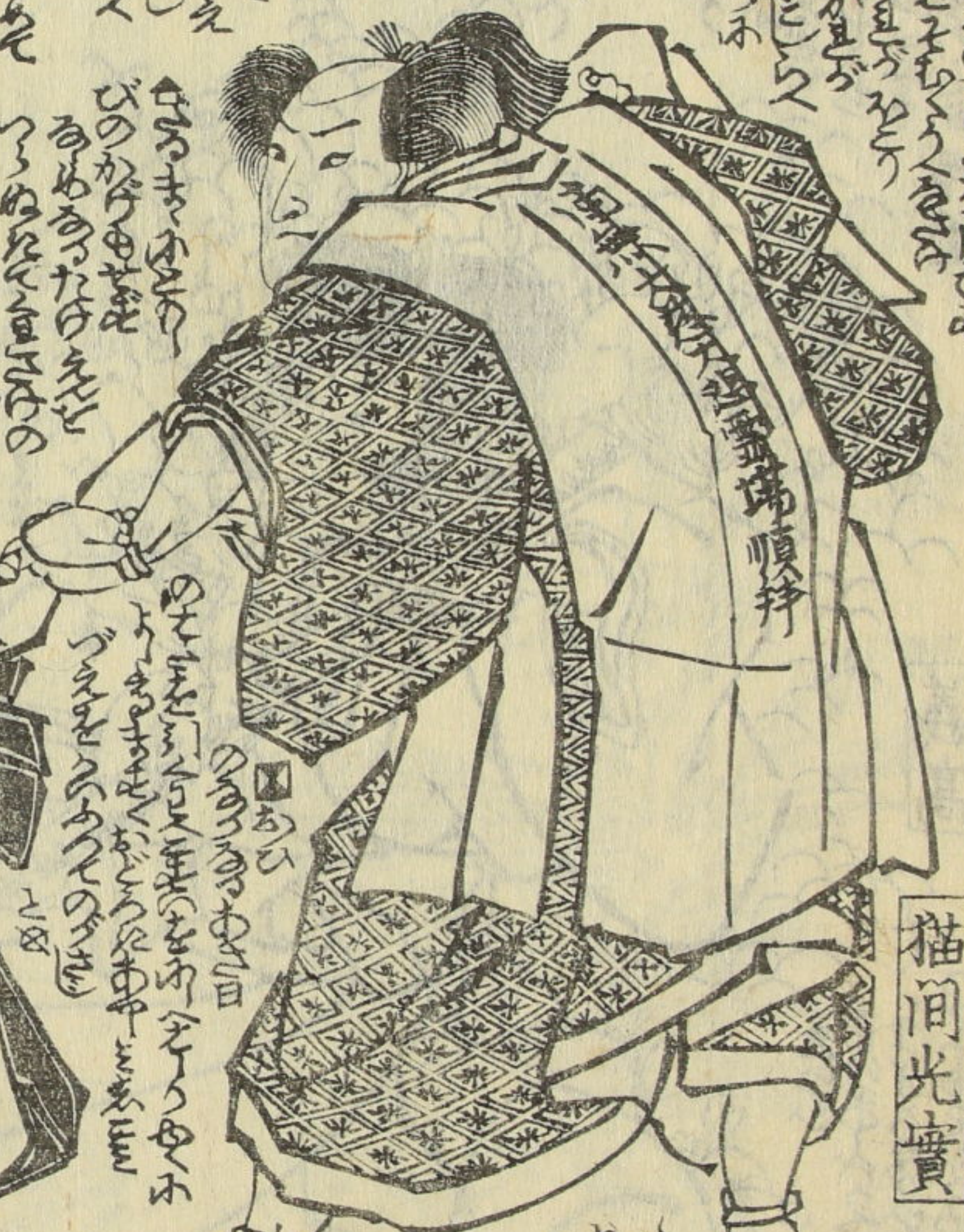
Handwritten text in the top left corner of the left page, including the characters '大姫'.

Handwritten text in the middle left section of the left page, including the characters '為久'.

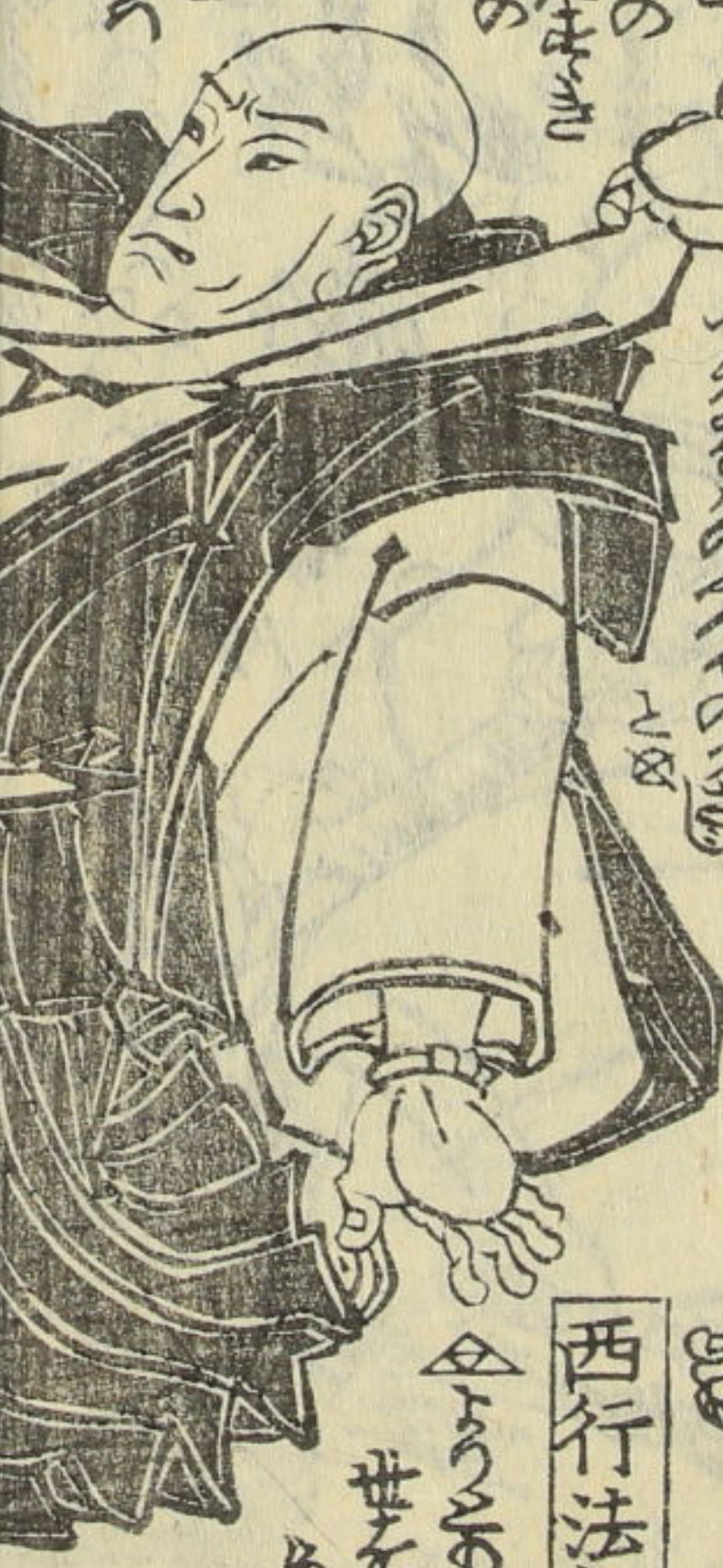
Handwritten text in the bottom middle section of the left page, including the characters '唐木'.

Handwritten text in the bottom right section of the left page.

Handwritten text in the upper right section of the right page, likely a commentary or transcription related to the scene.



猫間光實



西行法師

Handwritten text in the upper left section of the left page, continuing the commentary or transcription.



義高

Handwritten text in the lower left section of the left page, providing further details or commentary.

嘉永五年壬子年新春新版目録

其由縁鄙俣	十勇士尼子柱礎	兩夜鐘四谷雜談	引書語三性大夫	比翼裁縫倆權八	東地本錦繪板元
七編 十編迄	二編 五編迄	一編	四編 七編迄	初編 三編迄	錦昇堂
柳下亭種員作	柳下亭種員作	柳下亭種員作	樂亭西馬作	笠亭仙果作	東都照降町北側 笑壽屋庄七

樂亭西馬補述



一勇齋國芳画

此の畫は、樂亭西馬の補述に關するものなり。西馬は、寛政の末、文政の初めに活躍した、浮世繪の大家である。この畫は、西馬の畫作であると推定される。畫中の人物は、樂亭西馬の畫作であると推定される。畫中の人物は、樂亭西馬の畫作であると推定される。

180

三



編妻取

怪氣

標子

第二編

樂亭西馬作

一勇多國芳画

繪昇堂粹

